世界の医療団

〈コックスバザール報告〉

先の見えない暮らしを支えるために
ロヒンギャ危機から2年

©Kazuo Koishi

ご支援者の皆さまへ

拝啓

平素より世界の医療団を支援して下さり、ありがとうございます。
バングラデシュのコックスバザールで、隣国ミャンマーから逃れてきたロヒンギャ難民の方たちの支援を現地で担当している具貴香と申します。

ミャンマーのラカイン州で2017年8月25日に起きた武力衝突をきっかけに、それまでも同国内で弾圧の対象になっていたロヒンギャの方たちが、住み慣れた土地を次々と追われ、70万人を超える難民となりバングラデシュに流入しました。これを受けて世界の医療団は2017年12月から、コックスバザールの難民キャンプにおいて、ロヒンギャの方たちが自分の健康を守る方法を広める活動を行っています。難民キャンプでは医療へのアクセスが限られているため、疾病予防がとても大切です。

私たちの活動パートナーは、ロヒンギャの方たちの中から募ったユースボランティアです。このボランティアたちが、私たちと難民キャンプで暮らす方たちとの架け橋的存在として日々、奔走してくれています。私たちの同僚でもあり、また自身が難民でもある彼ら・彼女らとの普段の会話を通じて、ロヒンギャの方たちの思いを日々感じています。それをみなさまに是非知っていただきたく、筆を執りました。しばし、この若者たちに思いをはせてみてください。

難民キャンプの住民でもあるボランティアが、希望や悩みについて語ることがあります。私たちが活動を始めてからこれまでの間、その内容はほとんど変わることがありません。自由に、行きたい場所へ行きたい、健康でありたいという願いです。そして希望について語る時、特に若い10代のボランティアたちは、将来は「医師になりたい」「教師になりたい」と夢を描きます。なぜでしょうか。

医療が限られ、教育を受けられる機会も皆無に等しいここ難民キャンプで様々な困難を身を以て経験しているからこそ、若いボランティアたちは自分たちが医療や教育を届ける人になりたいと、強く願っているからなのです。

ある時、ヒアリングのためにキャンプで暮らすロヒンギャの方を訪ねた際には、私たちのためにバナナと飲み物が用意されていました。自分たちの食料を配給に頼っていて余裕がないのに、自分たちが持っているもので、客人をもてなしたいという心を抱き続けられる人たちなのです。

世界の医療団

こうしたロヒンギャの方たちの温かさ、人間らしさ、そして気高さに触れることは頻繁にあり、みんな難民である前に、一人ひとりの人間なのだということを思い知らされるのです。もう支援するということではなく、「一緒に闘わなくちゃ！」という気持ちが湧いてきます。

コックスバザールの難民キャンプには、2年前に発生した危機を契機に、世界中からの支援が集まっています。しかし、2年が過ぎた現在、当座をしのぐための支援だけでは十分ではありません。自由に移動し、健康でありたいといった、ロヒンギャの方たちが心から願っている、人間として最低限保証されているはずの未来が、現在の暮らしの先につながっていると感じられることが必要なのです。今後を見据えた、息の長い支援が必要な時期に入っています。

世界の医療団が難民キャンプ内のコミュニティで続けている活動は、健康に暮らすための知識を普及させることです。医療を受けられる機会が限られている中で、手洗いに始まる基本的な病気予防や応急処置の方法を広めるとともに、衛生品の簡易キットを配布しています。また、ジェンダーに基づく暴力（GBV）についての知識を広め、立場の弱い女性が暴力の犠牲とならないよう啓発活動を行っています。これらはいずれも、皆さまからいただくご寄付が役立てられています。

61人のロヒンギャボランティアは、若者を意味する「ユース」（14～17歳）の48人と、ユースのまとめ役である20～40歳代の「ユース教育係」13人で構成されています。難民キャンプでの生活者でもあるので、日々の暮らしぶりも気になります。「生活は何とかなっているの？」「お肉を食べられるようになった？」など声をかけると、「自分たちを気遣ってこのようなことを尋ねてくれる人は、ほかにいない」と言われたことがあります。

ボランティアは私たちにとっては、最も近くにいる難民です。彼・彼女らの活躍は、コミュニティを助けると同時に、自分たちが誰かの役に立っていることを実感でき、それぞれの生きる希望につながると信じています。ボランティアには、活動を手伝う対価として日当を支給していますが、より高い日当を支給する団体は他にもあります。しかし、「あなたの気持ちを感じるから、一緒に働きたい」と話していたと、人を介して聞きました。大きな喜びでした。

©Kazuo Koishi

長引く厳しい現実にも負けず、難民キャンプに暮らすロヒンギャの方たちが、希望を捨てずに日々を暮らしていけるようにするために、より多くの若いロヒンギャの方たちが活躍し、成長できる場の提供も行っていきたいと思っています。

引き続き、皆さまのあたたかいご支援をよろしくお願いいたします。

敬具

2019年9月　具貴香